



平成28(2016)年の地図(昭文社)



昭和26(1951)年の地図(旧商家野村家蔵)



きっかけ 同期の橋本さんから借りた「山大創基200年」(DVD)がきっかけです。「山大創基200年」(DVD)の中に昭和28年頃から33年頃までの山大学生の生活を記録した映画がありました。「学園」という名のドキュメントです。昭和30年前後の山大を及び周辺の風景が映し出されています。この映画の中に山高時代の英語の先生 田中慧子先生のご主人(でしょう)が映っています。この風景は私の小、中学校の通学路でまた幼い時の遊び場でした。幼い思い出が溢れてきました。私なりのアルバムをと思いネットを利用して作成しました。「後河原」はガキ仲間と遊んだ場所です。

後河原散策

8月に帰山して後河原を散策しました。「県警体育館」(武徳殿 昭和5年建設)の隣、伊勢橋から亀山橋までを散策。琴水橋付近は殆ど高級住宅街で鴻城病院、熊谷産病院も建物が変わっているだけで昔のままです。琴水橋から南に行くと風情をのこしたままで商店がぼつぼつと見られます。鴻東橋から南は右岸にヤマザキコンビニ(安富酒店)、惣野旅館、左岸には山口信愛教会、山寅楼があります。特に惣野旅館は創業明治39(1906)年 110年、信愛教会も明治24(1891)年の創立、山寅楼も創業百数十年の歴史があります。今、あらためて古い伝統のある街、元気な老舗のある街だと感じました。

後河原の橋

伊勢橋から亀山橋まで約1km。その間9つの橋があります。車の通れる橋が5つ。人一人だけが通る橋が4つあります。人一人通る橋を一人橋と私は呼ぶことにします。橋は道路と道路を繋ぐためのものですが一人橋は川の側道を繋ぐ橋です。京都の木屋町通りの高瀬川を連想しましたが川幅3mで橋の幅が1m程度。似ていません。八幡市の木津川に架かる「流れ橋」を考えましたがもう少し幅があり長さが350mあります。ひとり橋は長さ約10m強 歩行する橋の幅は85cm(計測しました)。中央にすれ違いができる様に倍の幅の膨らみがあります。また50cm程度の手摺り(昔はなかった)も設置されてます。残った橋も補強されています。昭和48年大水害が発生して付近は甚大な被害に遭い、ひとり橋は全滅し(惣野さんの話)、全て架け替えられました。昔の橋の写真を見るとどの橋にも1ないし2の橋脚がありました。今の全ての橋には橋脚がありません。橋脚がなければ橋は流されません。全国を渡り歩きましたがこのような橋は山口だけです。上の地図で平成28年(2016)の地図と昭和26年(1951)の地図と比べてみると昭和26年の地図には一人橋がないのです。私はこの時小学生です。私の記憶では一人橋はありました。この頃の橋は中央の膨らみ、手摺りはありません。大正時代の写真には一人橋が写っていました。ひとり橋は花見のために作られたとも言われています。

後河原町

14世紀大内時代、京の基盤目の街並みと一の坂川を京都の鴨川に擬えて街を作りました。「西の京」の由縁です。後河原は大内御殿の後?ということで後河原町と名付けられた様です。



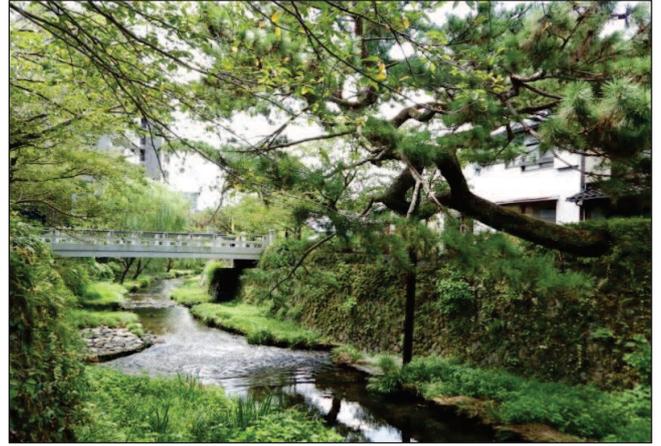
柳橋(一人橋)



柳橋(一人橋)



伊勢橋(国道9号線バイパスの隣)寿橋より上流



亀山橋(山寅楼前から下流を見る)



クリエイティブスペース赤レンガ 1980年代の赤レンガ館
(50年前頃はみかど食堂)
旧県立図書館書庫 1918年竣工
1992年 クリエイティブスペース赤レンガとしてスタート



一の坂川交通交流広場 公設市場の跡地
昭和23年頃は市営バス車庫でした。



中河原 御茶屋橋 周囲も川にも緑がありません
流域が後河原より広くなりました。上流を見る



早間田 千歳橋 下流を見る

600年経った今でも川の位置、流れ、地名は変わっていません。



現在の地図

大内時代(15世紀頃)の地図



別の古図に記載されている橋

大内時代の地図には後河原に架かる橋がありません。大内氏時代の全体地図を見ると橋があるのは天花で一の坂川(虹橋?)と交差するする道路(萩往還)、道場門前から西門前に渡る橋(阿部橋)そして中河原の陶氏出屋前との橋(御茶屋橋)の3つの橋です。地図に掲載されてないのかわかりません。川が浅い? こともあり水の中をジャブジャブと歩いてたか、飛び石を置いていたか (大内時代の別の古地図には伊勢小路から西門前まで6つの橋があります)

後河原の構造と蛍

昭和40年代に入り川底を掘削し深くしました。昭和48年の大水害により更なる改修工事が行われました。工事により蛍の絶滅が危惧され蛍を保護しながら(萩より蛍に良い安山岩を導入)工事を行い再び蛍の乱舞を見る事ができる様になりました。(昭和53年一の坂ダム完成)

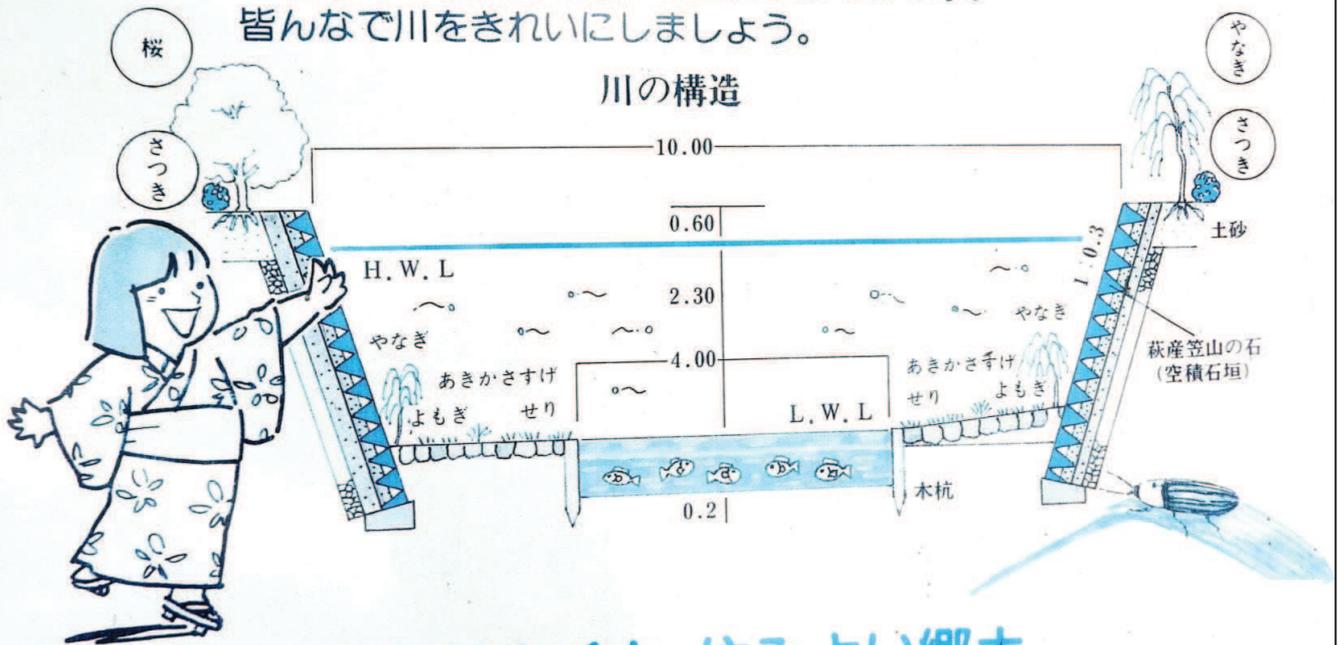
そもそも後河原の蛍の起源は? 室町時代、大内氏と京都とは頻繁な交流がありました。当然、女性も来山されます。来山された女性(姫君)を慰めるため宇治のゲンジボタルを大量に採取して山口に持ってきたとの事です。当時、宇治から山口まで相当な日数がかかります。成虫では持たないのでサナギを運んだのでしょう。街の真ん中で蛍を鑑賞できるのは山口だけですね。

ゲンジボタルの一生

- (ア) 4月上旬の雨の夜に、ホタルの幼虫が水中から陸上にあがって土中にもぐり、サナギとなる準備をします。
- (イ) 5月中旬より下旬にかけて、サナギとなります。
- (ウ) 6月上旬頃、成虫となり土中から出て10日間位は生きて飛びかいます。この間に交尾し、川岸のコケ類に産卵します。
- (エ) 7月中旬から卵がふ化して幼虫になり、翌年3月までの間に6回脱皮します。幼虫は、昼は川底の石の下や砂中にもぐり、夜間はカワニナを食べます。

ホタルのすむ場所	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水中	幼虫	(エ)							(エ)				
土中	前サナギ				(ア)								
土中	サナギ					(イ)							
空中	成虫(ホタルの飛びかう時期)						(ウ)						
水辺のコケ	卵												

この川は「住みよい環境」づくりをめざし、ホタルも生棲できる工法で護岸を築造したものです。皆んなで川をきれいにしましょう。



ふれあう心のびゆくカ 住みよい郷土

後河原の桜は大正天皇即位を記念して植樹されたそうです。



山大映画「学園」のシーンです。柳橋から上流を撮ったものかな？



昭和39年頃の川改修工事。安富酒店前



「お婆さんは川で洗濯に」のシーンです。昔は当たり前でした。



昭和39年頃の川改修工事。安富酒店前

昭和39年頃の川改修工事。安富酒店前

昭和39年頃の川改修工事。安富酒店前



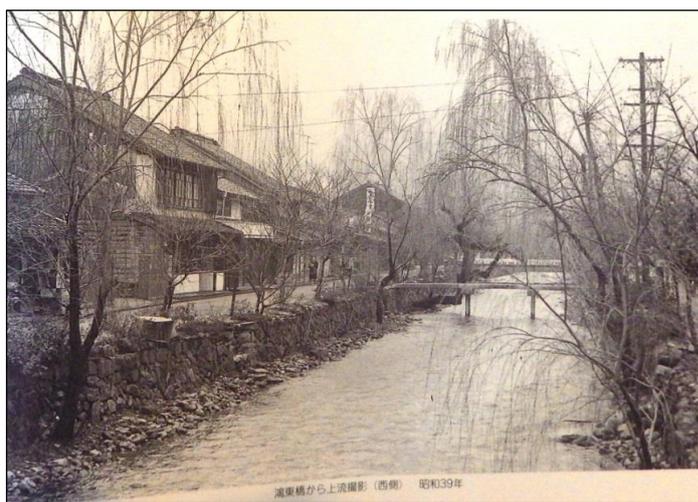
鴻東橋の西南角 平成28年8月



麻生助産院風景 昭和33年頃



山寅楼から上流 柳橋 向こうは鴻東橋 昭和39年



鴻東橋から上流 昭和39年



亀山橋 右の写真の逆方向



亀山橋風景 昭和46年頃

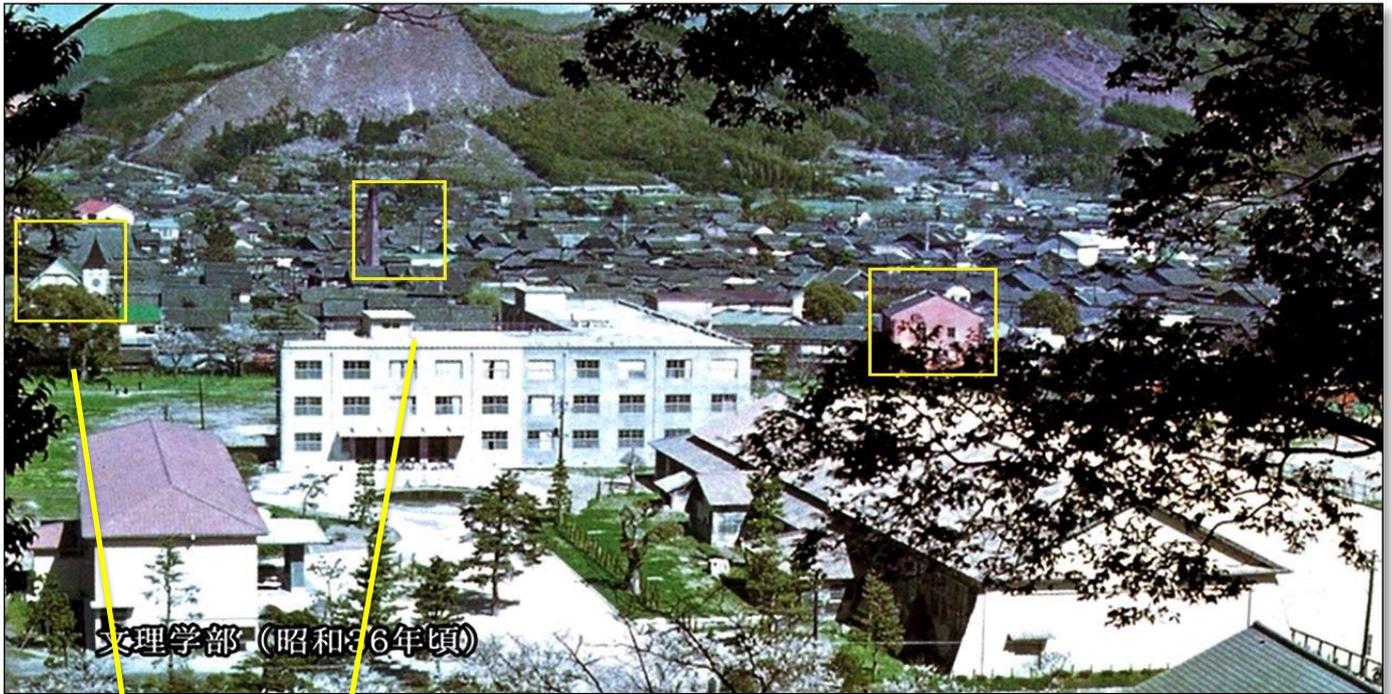


山寅楼の前です。柳の大きな老木です。小学生の頃、この木に登って遊んでいました。斜めになっているから登りやすい。下の箱は山寅楼の鰻の生簀です。今は、柳の木も生簀もありません。よくぞこの写真が残っていましたね。
撮影は昭和39年頃

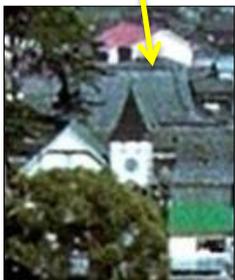


後河原思い出の写真集より

「山大創基200年」の文理学部の校舎の昭和36年頃の写真です。亀山から写した写真でしょうか。東側の山がせまり過ぎて不自然です。望遠レンズのいたずらですね。黄枠は左から山口信愛教会、亀山湯、赤レンガ館です。現存しているのは赤レンガ館(クリエイティブスペース赤レンガ)のみです。



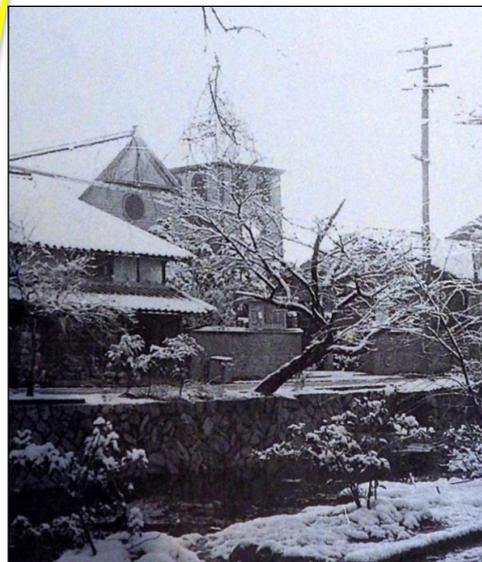
文理学部(昭和36年頃)



山口信愛教会



亀山湯



1908年に建設(2代目)



1991年に建設(3代目)創立100年記念

山口信愛教会

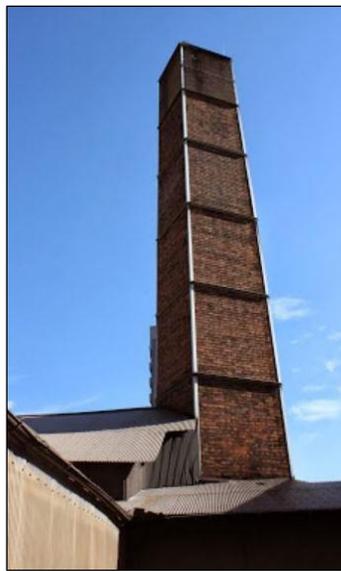
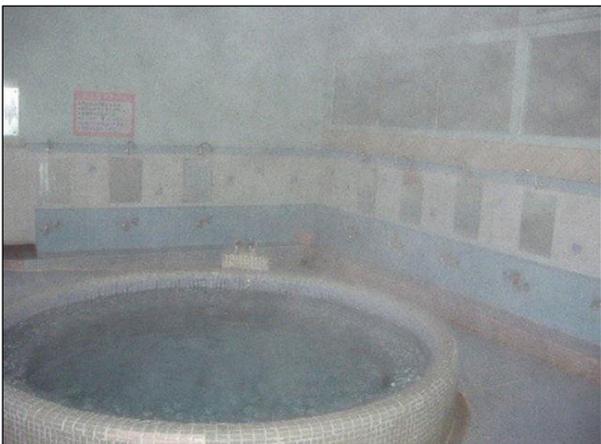
山口信愛教会の創立は明治24年(1891)ですので125年の歴史があります。アメリカ南部メソジスト教会のランバス(関西学院創立者)が1886年神戸を中心に布教活動山口にも来ました。その後を継いだ宣教師がこの地に教会を作りました。この時の受洗者が12名その中に聖路加病院の名誉理事長日野原重明さん(湯田出身)のお父さん日野原善輔さんもおられました。

亀山湯

煙突のない山口の町に赤レンガの煙突のあるお風呂屋さんが亀山湯です。後河原左岸のひとつ奥の通りにあります。山寅楼の裏口の前です。建物は変わっていません。幼い時、母に連れられ風呂に入りに来ました。40歳ぐらいの姉妹が交代で番台に座っていました。妹さんはタケさんだっと思います。記憶に残っているのは赤レンガの煙突、当時より短くなったような気がします。補強はありませんでした。そしてコンクリート製の貯水槽、約3.5m~4m程度の直方体だろうと思いますが、幼い時はとても大きく感じました。風呂の建物右側は燃料になる鋸屑が山のように積まれていました。(風呂屋の裏が製材所でした)その奥にボイラーが見えました。「平成25(2013)年5月末営業を終了する」の張り紙を見ました。創業が明治38(1905)年と知り改めて驚きました。市が文化財として保存することを考えたらしいが折り合いがつかず今はお風呂屋の影形もなく、家が建っていました。(2016. 8月現地に行ってきました)

(追記)亀山湯貯水槽より東に50m行った先に高校時代の地学の先生縄田先生のお宅があります。

今お住まいかどうかわかりません。



赤レンガの煙突 煙突下部
凄く高いと感じましたが大人になればさほどでもありません。



貯水槽、 煙突 お風呂屋

撮影は2009年8月
県庁所在地で銭湯がないのは山口(湯田を除く)
映画館もなかったか。

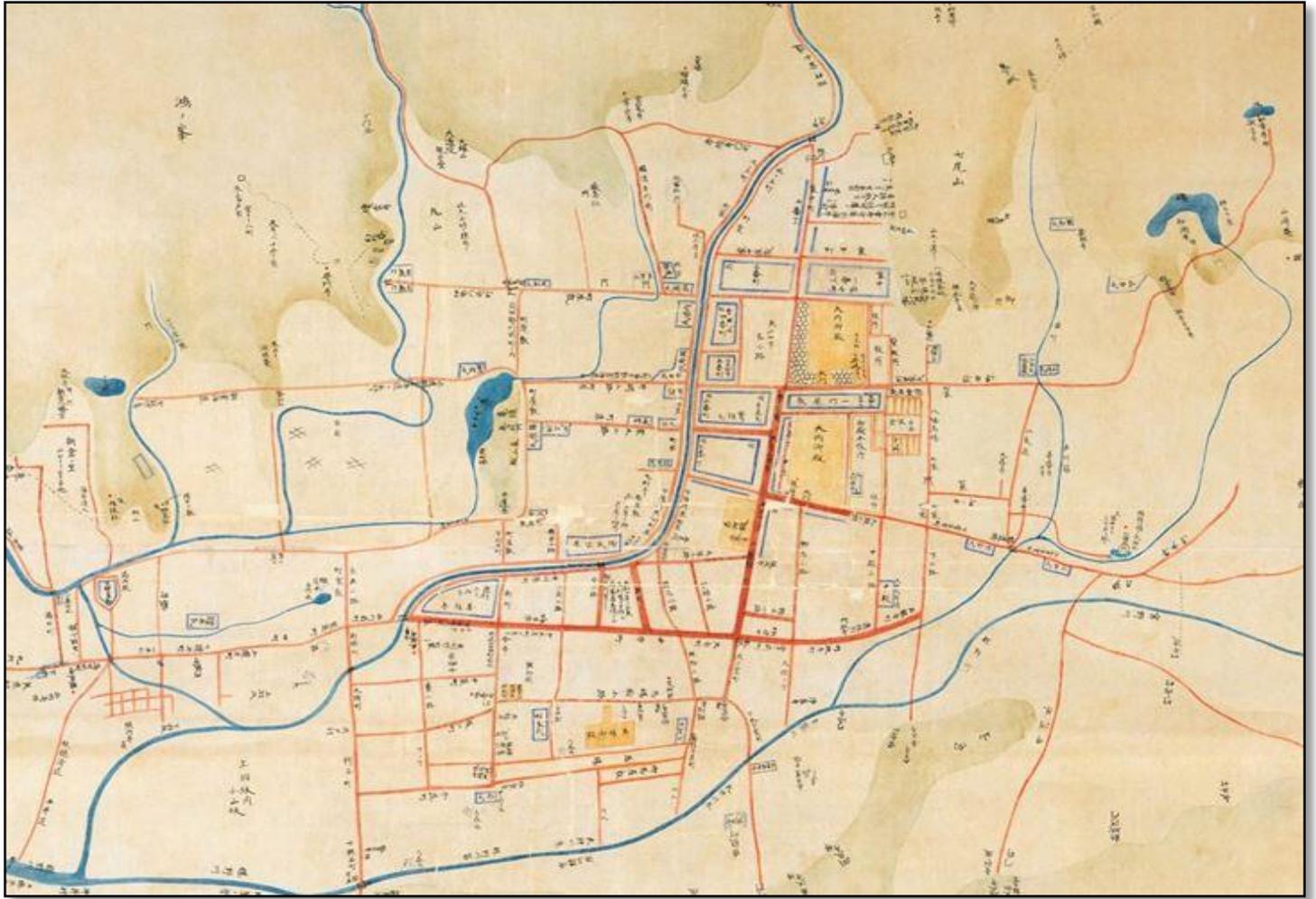
60数年前の浴槽は角だった。

江戸時代(18世紀)の山口

(「行程記」 山口県文書館蔵)



* 資料はインターネットによる「歴史をつむぐ流れと共に」 その他。「旧商家野村家」「大内史料館」 展示物
「大路ロビー」資料閲覧 「後河原思い出の写真集」閲覧



何れも山口県文書館に保管 下の地図には橋があります。
 下の地図は山口市のパンフレット「西の京 やまぐち」に掲載